

20 中世ヨーロッパの衛生思想 Six non-naturals

平尾 真智子

西洋医学史の領域で中世以来 six non-naturals と呼ばれている言葉がある。その適切な訳語はないのだが、強いて訳語をすれば「六つの衛生条件」という意味である。この six non-naturals とは、中世にラテン語で sex res non naturales と呼ばれてきた言葉を機械的に近代英語に置き換えただけで、それだけでは英語でも何のことかはわからない。一八世紀の末までに医学者たちはそれを珍しい、不適切な名づけと呼んでいた。six non-naturals という用語で代表されるその概念は、現実的に人間の健康または病気を決定する六つの因子のことである。

医学史家は non-naturals の教義の父としてガレノスをあげている。ガレノスは健康と病気とその中間の状態を必然的に維持する原因というものを考え、それらを適

度にあたえることが健康であり不適切に与えることが不健康であると考えていた。non-naturals はガレノスの著書『医術』、『健康の保持について』、『初心者のための脈拍の本』のなかでとりあげられている。

九世紀にアラビアで活躍したヨハンニクス (Johannitus, アラビアではフナイン・イブン・イスハーク、809-873) は、ヒポクラテス、ガレノスなどの作品をギリシア語原典からアラビア語に翻訳する第一人者であった。彼はガレノスの医学を体系化した『イサゴージェ』(Isagoge) を書いた。Isagoge とは、ギリシア語の「手引き」(Einführung) をラテン語綴りにしたもので、この本のフルネームは「Isagoge in Artem parva Galeni」である。これを日本語に訳すと「ガレノスの小治療学入門」となる。言語はアラビア語であるが、中世に広く用いられたのは、コンスタンチヌス・アフリカヌスという有名な翻訳者の手になる、そのラテン語訳の「Johanniti Isagoge in artem parvam Galeni」という本である。この本は中世のあちこちの大学で、医学のテキストとして用いられた。このラテン語訳のイサゴージェは、一九世紀のイギリスの

医学史家、ウィジントン (Withington) により英語に訳されている。

イサゴエ(英訳)の内容は、冒頭に、まず医学が理論的・実際の二部門よりなることが記され、以下の大部分は前者の説明にあてられている。理論医学では「I. naturalis」 「II. six non-naturalis」 「III. contra-naturalis」の三つを考察する。Iの naturalis は、いわば自然学ないし基礎科学で、ガレノス医学の基礎的諸問題が整然と説かれている。IIの six non-naturalis は、いわば衛生学でその内容は一・空気、二・運動、休息、入浴、三・食物と飲物、四・睡眠と覚醒、五・性生活、六・精神の病気、と番号が明記され六つとなっている。IIIの contra-naturalis は、病理学を主とした内容となっているが、養生法、治療法についても述べられている。医学のはたらかきとしては、「健康の保護」「病気の治療」「修復」の三つが記され、健康の養生法では、第一に six non-naturalis の調整、第二に (一) 過剰・病的な体液の除去、(二) six non-naturalis の誤りを正すこと、が述べられている。さらに治療法は、一般的な、特殊な、の二つに分けられ、

前者は six non-naturalis の順序で人々を取り扱うことと述べられている。実際医学では、(一) six non-naturalis の調整、(二) 薬物を与える、(三) 外科、の三つに分けられ、簡略に記述されている。

このような中世の six non-naturalis の意義とその内容は、近代看護学を樹立したナイチンゲールの「看護覚え書」の内容と共通するものがあるので今後も探求していきたい。

(慈恵看護専門学校)